

この調査は、X線写真に異常を呈さない程度の気管支炎でも、シンチグラム上、“Hot lungs”として、描出され得る事を示すと考える。

## 21. 肺結核症のガリウム67シンチ像の治療による変化についての経験

○飯野 祐

(静岡県立富士見病院・放)

宇山 瑞穂

(同・内)

目的：肺結核症の治療による変化をガリウム67シンチ像により追跡し、肺癌との鑑別、結核症の予後についての推定に役だてる可能性を検討してみたい。

方法：主として初回治療患者を対象とし、治療

前ないしは治療後2週以内を原則としてガリウム67を投与し、2～4日後に島津製SCC-750W(全身スキャナ)を用いて検査を行った。第2回目の検査は2～4カ月後に行った。

結果：初回治療患者27例中、シンチ⊕は20例であった。⊖の7例の内訳は結核腫3例、活動性の時期を過ぎていたもの3例、検出するには小さすぎたもの1例であった。また再治療患者は10例であり全例⊕であったが、これは経過、X線写真所見よりみて当然⊕に出ることが予想される患者を選んだためと思われる。

初回治療患者で第2回検査を行ったものは15例あり、13例が⊕であったが、そのうち10例はシンチ、X線所見とも改善が認められた。シンチ像で増悪、および略不変は3例あったが、うち1例はX線所見と一致しなかった。

今後、症例を重ねてなお検討する予定である。